

令和6年度大阪府ガンカモ類等鳥類生息調査の結果について

ガンカモ類生息調査（全国ガンカモ一斉調査）は、ガン、カモ、ハクチョウ類の冬期生息状況の把握を目的として、1970年（昭和45年）から毎年1月に実施されています。環境省の呼びかけで全国の都道府県が一斉に実施するもので、今回が56回目の調査となります。今回、大阪府の調査では、カモ類が34,809羽観察されましたが、ガン類・ハクチョウ類は観察されませんでした。

また、カワウ及びオオバンが増減傾向を把握するため、調査の際、これらの鳥の観察も行いました。

【大阪府における調査の概要】

- | | |
|---------|---|
| 1 調査年月日 | 令和7年1月4日～1月22日 |
| 2 調査地 | 453 地点
ガンカモ類が生息すると予測される府内の池沼、河川、
海岸等 |
| 3 調査員 | 延べ615名
日本野鳥の会大阪支部会員等 |
| 4 調査方法 | 各調査地において種別の個体数を目視によりカウント
双眼鏡、望遠鏡、カメラ、カウンター等を使用 |

5 調査結果

(1) カモ類

カモ類は、377 地点で 21 種 34,809 羽が観察されました。

総観察数は昨年度から 1,358 羽（約 4 %）の減少となりました。〔図 1〕。

観察数を調査地別にみると、淀川（府境～河口）、堺第 2 区人工干潟周辺、北港、神崎川、平林貯木場の順に多く観察されました〔表 1〕。

種別の観察数では、ホシハジロ、ヒドリガモ、スズガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、カルガモ、コガモの順に多く観察されました〔図 2〕。種別観察数の近年の傾向については〔表 2、図 3、図 4〕にまとめています。

また、環境省が【絶滅の危険が増大している種】（絶滅危惧Ⅱ類）として指定しているツクシガモおよびトモエガモが観察され、【評価するだけの情報が不足している種】（情報不足）として指定しているアカハジロおよびオシドリが観察されました。

ツクシガモは 40 年連続、トモエガモは 22 年連続、オシドリは調査開始以来 56 年連続の観察です。

- ・ ツクシガモは、ヨーロッパやユーラシア大陸中央部に生息し、冬期には東アジアなどへ渡る大型のカモです。日本では、主に九州北部の干潟などに飛来し、近年大阪においても、これらの地域に次いで観察数が多くなっています。
- ・ トモエガモは、冬鳥として本州以南の日本海側に多く渡来し、太平洋側では少なく、年によっては何ヵ所かで数百羽以上の群れが見られます。湖沼、池、河川などに生息しています。
- ・ オシドリは、主に本州中部地方以北で繁殖し、冬は西日本で越冬するものが多いことが知られています。
- ・ アカハジロは、まれな冬鳥として湖沼や池に渡来し、単独でキンクロハジロやホシハジロの群中にいることがあります。

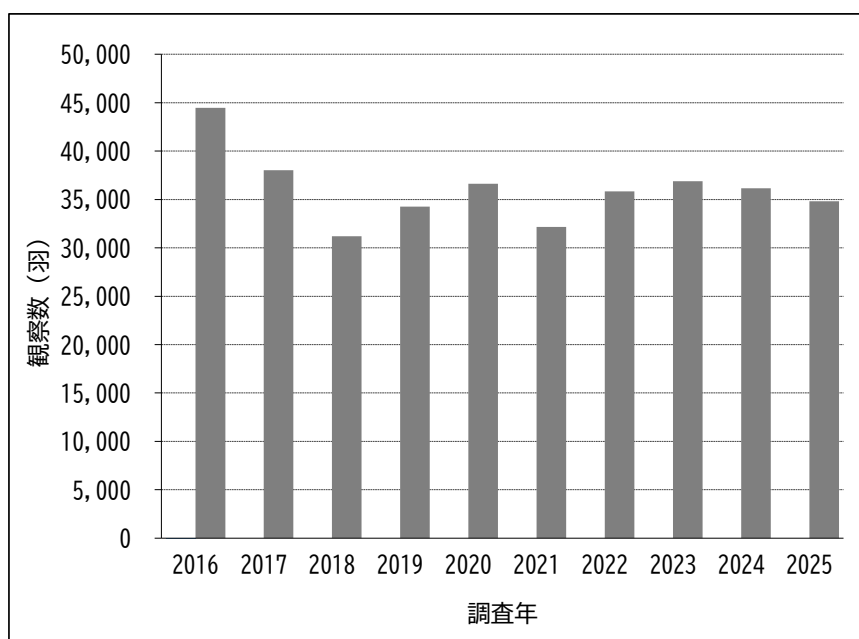


図 1 カモ類の観察数の推移

表 1 カモ類の調査地別観察数

調査地点・地域	観察数 (羽)
淀川全域	8,483
堺第 2 区人工干潟周辺	1,923
北港（北地区）	1,448
神崎川	1,237
平林貯木場	1,106
その他	20,612
合計	34,809

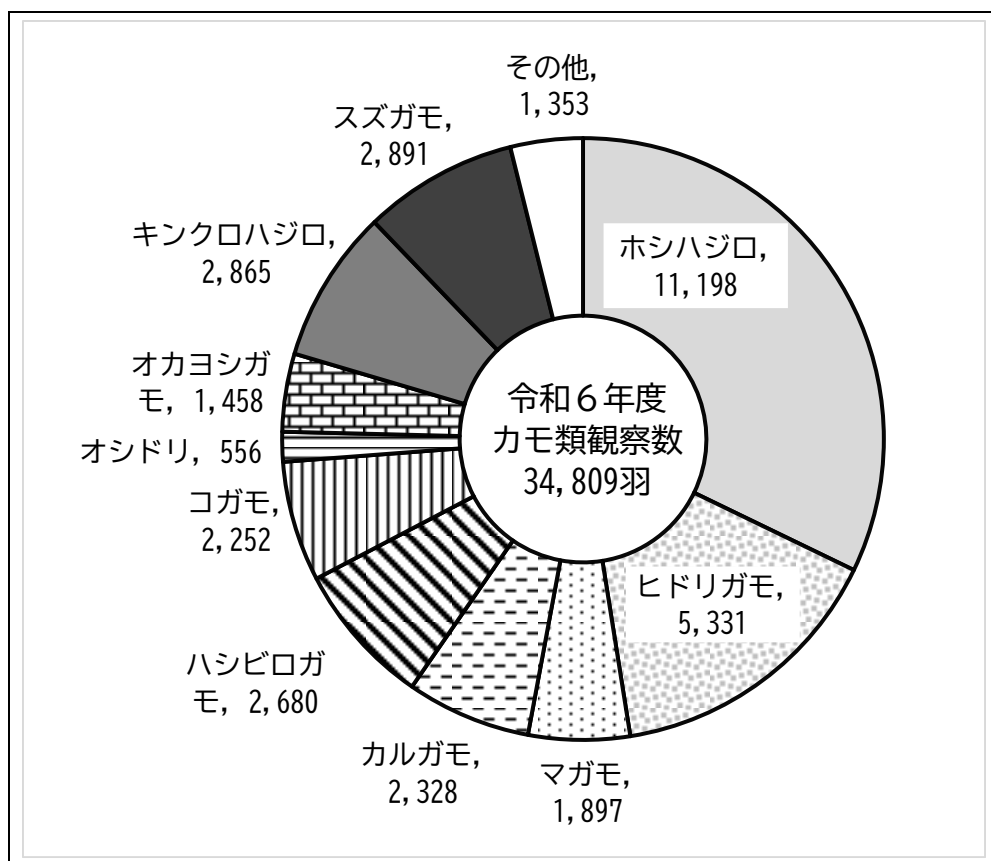


図2 カモ類観察数の種別内訳

表2 カモ類の観察数の近年の傾向

種名	傾向	備考
ホシハジロ	減少	府内で最も多く観察されるカモ類。今年度は昨年度より減少した。調査年によって変動が大きい、長期的には減少傾向にある。
ヒドリガモ	減少	昨年度に続き今年度も減少したが、長期的にはやや減少傾向にある。
マガモ	安定	昨年度に続き今年度も減少したが、長期的には横ばい。
カルガモ	安定	昨年度に続き今年度も減少したが、長期的には横ばい。
ハシビロガモ	安定	昨年度から増加したが、長期的には横ばい。
コガモ	安定	昨年度から減少したが、長期的には横ばい。
オシドリ	安定	昨年度、今年度と減少したが、長期的には横ばい。
オカヨシガモ	増加	2016年以降増加概ね毎年増加している。
キンクロハジロ	減少	昨年度に続き今年度も減少した。長期的にも減少傾向にある。
スズガモ	安定	2018年以降は変動しながらも、今年度は大きく増加した。

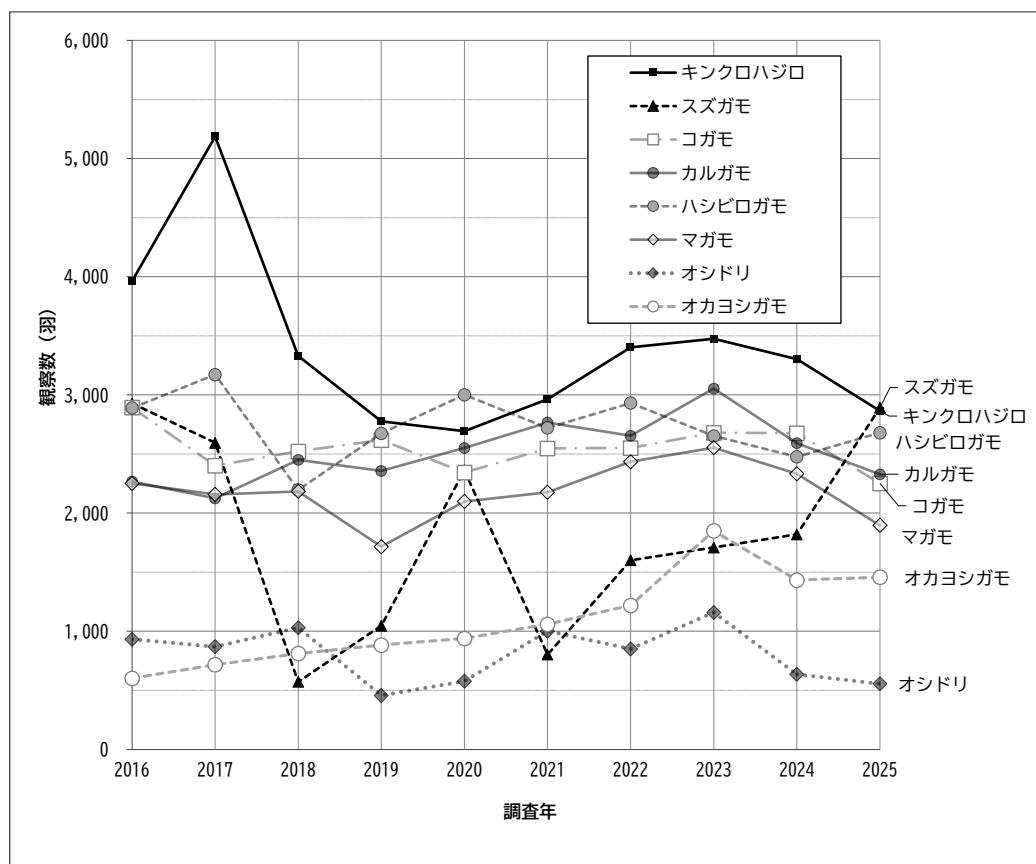


図3 主要カモ類（ホシハジロ、ヒドリガモを除く）の観察数の推移

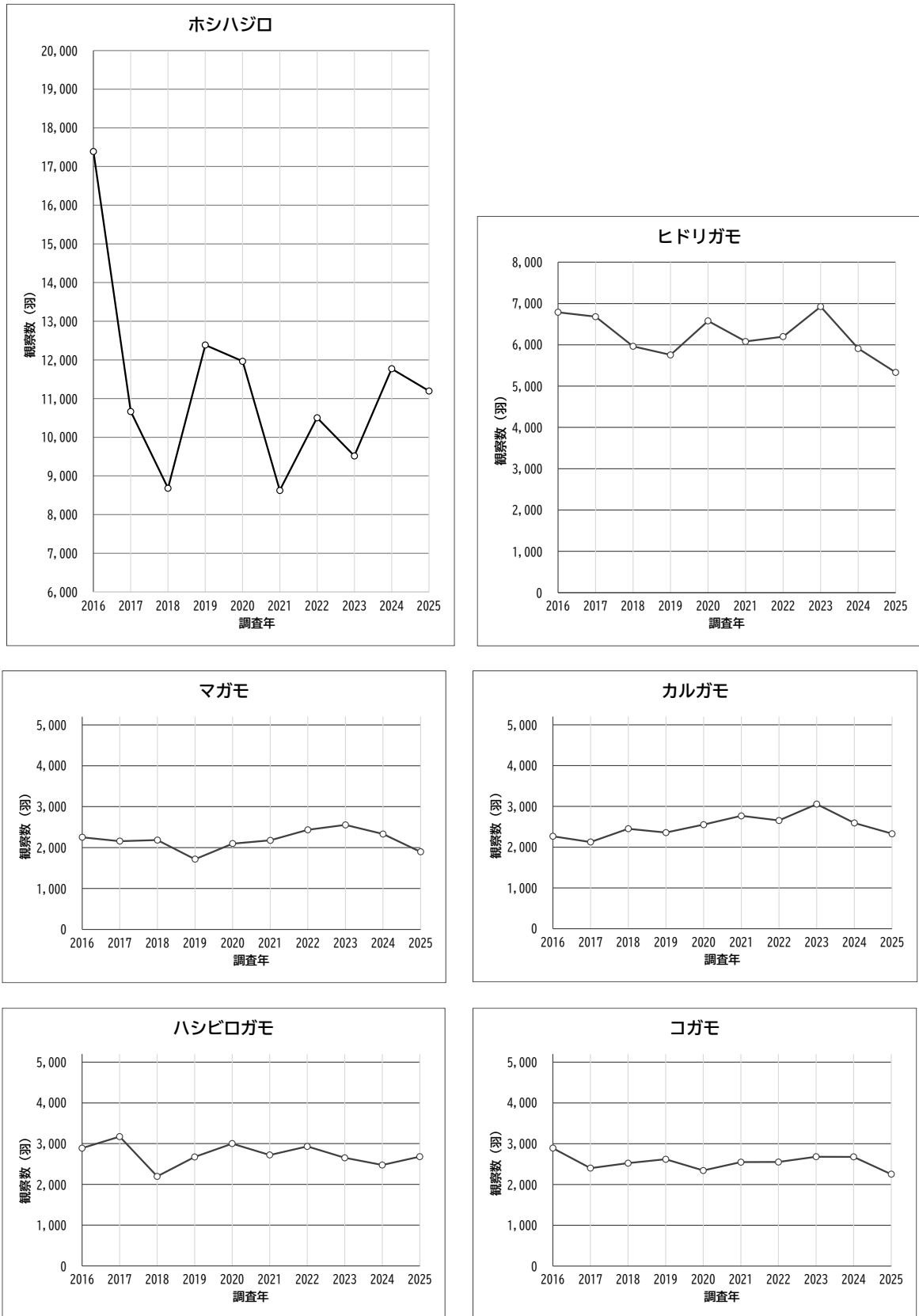


図4 (1) 主要カモ類の観察数の推移（種別グラフ）

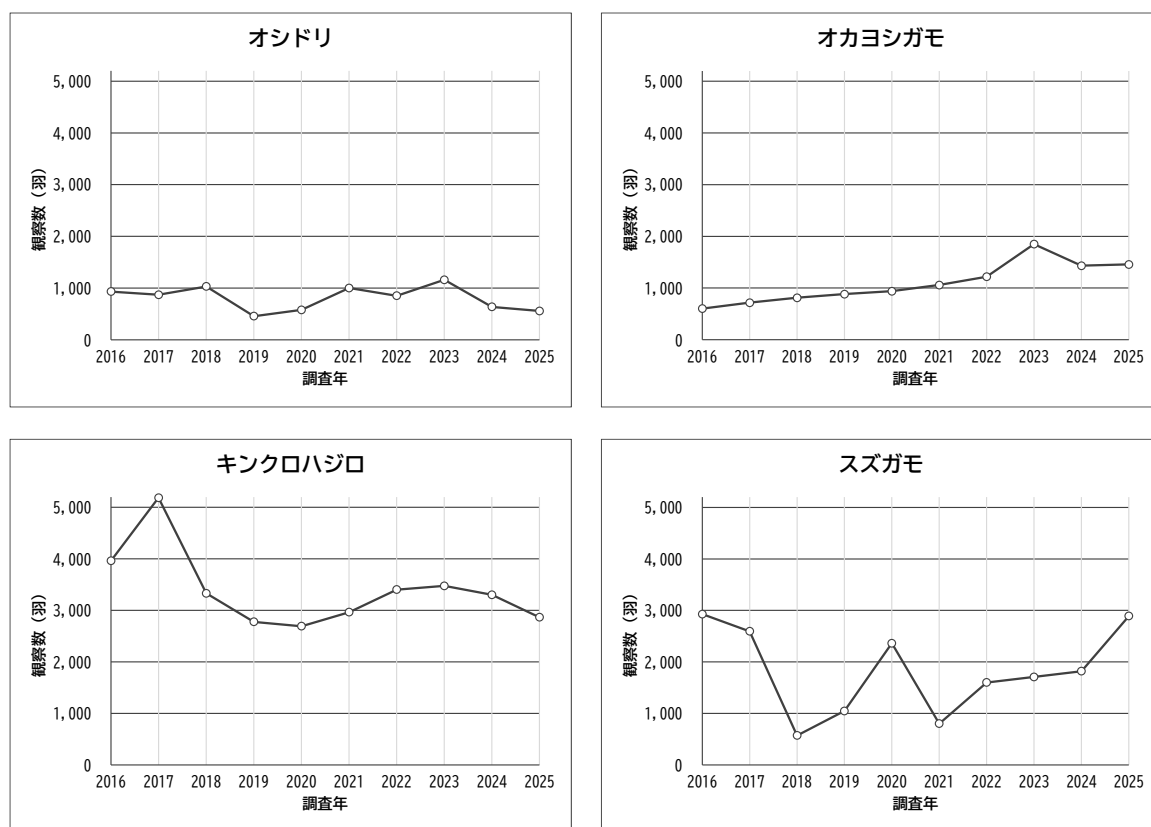


図4 (2) 主要カモ類の観察数の推移（種別グラフ）

(2) ハクチョウ類、ガン類

ガン類・ハクチョウ類は観察されませんでした。

6 カワウについて

今回は、176 地点で 3,872 羽が観察されました。

2018 年以降、観察数は増減を繰り返しており、今回は昨年より約 800 羽増加しました。

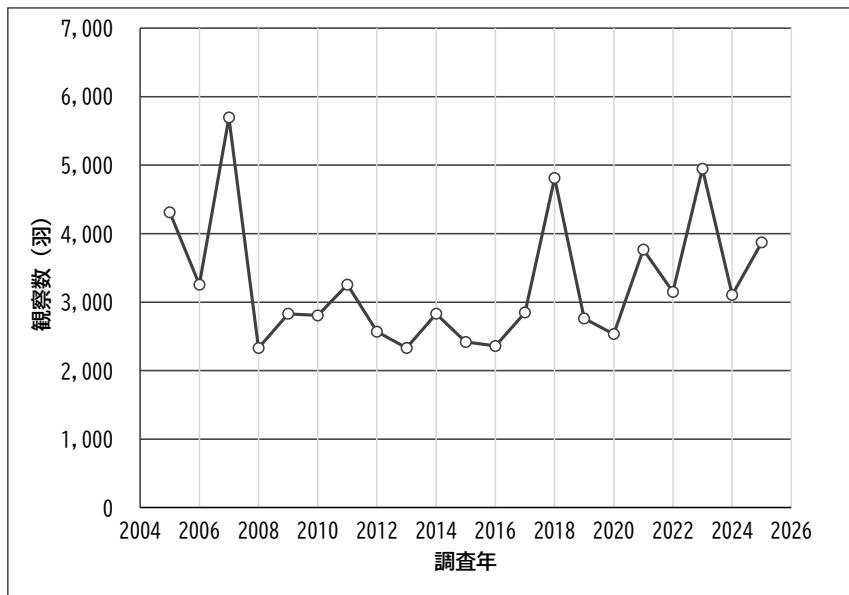


図5 カワウの観察数の推移

7 オオバンについて

今回は、221 地点で 3,825 羽が観察されました。

2020 年以降観察数は増加傾向にありましたが、昨年大幅に減少、今回は昨年より約 1,300 羽増加しました。

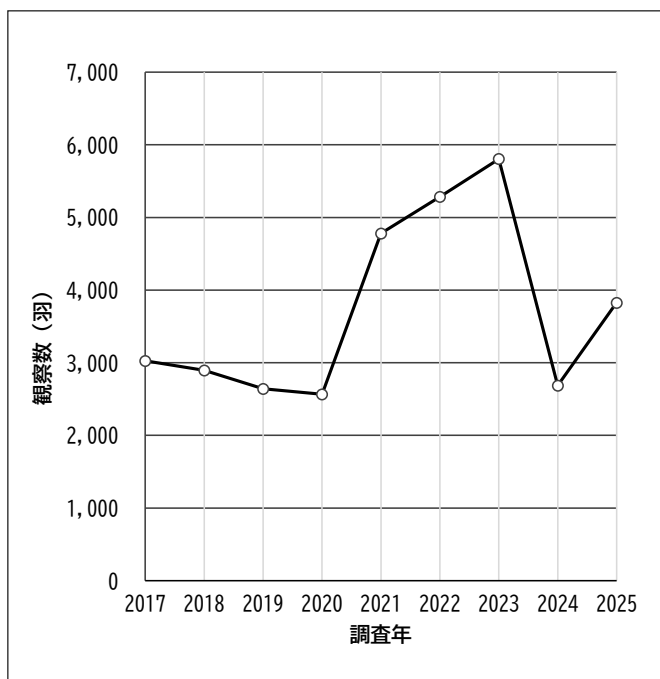


図6 オオバンの観察数の推移